



# いちようっ子

## 学校教育目標

強 く－自信をもって心身ともに鍛える子  
正 しく－深く考え、進んで学ぶ子  
美 しく－思いやりがあり、感動する子

## 学び続ける教師

～信頼される教師のために～

校長 吉野 徳子

1月に実施した校内音楽会では、保護者や地域の皆様方に、児童の「伝えたい！」気持ちを届けることができたでしょうか？「思い」が伝わったとき、そこには、大きな感動が生まれます。今回の音楽会も、多くの感動を味わうことができたと思っております。ありがとうございました。



この音楽会を進めるにあたっては、先生方が、児童のよさを生かすための選曲を秋から行い、練習を重ねてきました。3学期になってからは、聴きにきてくださった方々を感動させるためにはと、表現の仕方を工夫していました。

各々の教員の中には、音楽が苦手な教員もいます。また、指揮に苦勞している教師もいます。しかし、「ここをもう一度指揮と合わせてもいい？」、「ここをもう少し盛り上げたい。ピアノ伴奏も…のように弾いてみて。」、「先生が合図するからよく見てね。」など、教師と児童で演奏をつくりあげてきました。

音楽を通して、児童には「心の豊かさ」を身に付けさせますが、本校においては教師一人一人の学びの場でもありました。教師の指導によって、音楽に深味がでること、教師の指揮により児童も音楽がかわること、本当に多くのことを学ぶ場でした。その結果、当日は演奏者の児童と教師、そして観衆も感動の渦に包まれた音楽会になりました。手前味噌ながら、本校の音楽会が素晴らしいのはこのような教職員の集団でつくられている音楽会だからだと改めて感じました。

2学期の終わりに御協力いただいた学校評価アンケートの中に、「本校教職員から信念と情熱を感じる。＝96%」、「本校職員は児童・保護者・地域から信頼されている。＝98%」という項目がありました。（詳細は後述）本校の教員にも、未熟な点が多々ありますが、どちらの項目も100%近い回答をいただけたこと、大変うれしく感じています。今後も、本校の教職員が、児童のために何をどうすればいいか、など「学び続ける教師」として、成長できるよう研鑽に励んでまいります。

一方、世の中では「働き方改革」が叫ばれています。学校現場にもその風潮はあり、文部科学省より「公立学校の教員の勤務時間の上限に関するガイドライン」が提示されました。その中には、「超過勤務1ヵ月45時間、年間360時間を上限とする。」とされております。

お恥ずかしながら、本校教職員の超過勤務時間の平均が56時間です。月によっては、70時間の場合もあります。1日平均3～4時間の超過勤務となります。

学校に求められているものが今と昔とでは大きな違いがあります。私自身40年の教員生活の中で、「教師は教育のプロ」といわれ、児童理解・授業改善に取り組み、それは充実した日々を過ごしてきました。しかし、今の教員が抱えるものは、大変多くなってきました。教員生活を充実し過ぎてきた私としては、これからの若い教員にも、この先ずっと教員を続けてほしいですし、公私ともに充実した毎日を過ごしてほしいと思っています。

「超過勤務時間」だけで、判断することではありませんが、「教育のプロ」としての時間を重要視しながら「ワークライフバランス」を整えていくことが、「教職員の情熱」を支えられることにもなると考えています。

保護者や地域の皆様方も、本校教職員に多くの言葉をかけてください。

例えば、「音楽会は……でしたね。」、「……ところよかったですよ。」この言葉こそ、大きな「やる気」になっていきます。また、相談事や「先生、……は困ります。」なども、「学び続ける教師」とにとって、重要な言葉でもあります。家庭・地域・学校で互いに高めあっていきたいものです。

### 蠟梅

通勤途中、蠟梅がさいている御家庭があります。艶のある黄色く香り高い花が咲く「蠟梅」は、寒い時期にさき、香り高いところから梅の花のように思われがちですが、バラ目バラ科に属しているようです。

2月になると、あちらこちらに咲く「蠟梅」に目を向けるようになったのも、ここ10数年。

年を重ねて楽しみ方も広がり深まることができ、なかなかいいものだと、感じるようにもなりました。

季節は、春に向かっていくのですね。

